



## 宇宙の形成への考察

令和6年12月21日

黒田 毅

ビッグバンの形成がゼロの崩壊であり、これが固定エネルギーの放出を与え、空間の形成を空間の飽和性の形成における宇宙の創造を提案したと定義することは、個人的な考察において提案したい。

これは  $E=mc^2$  と  $m=E/c^2$  と  $c=\sqrt{m/E}$  という3つの定式において説明を与えるものである。

これらエネルギーの放出と空間の飽和性における構築へのスピードが、 $c$ という光速度の形成とともに、考察できるのである。

またこれらがエネルギーの固定数における宇宙の創造として提起するため、宇宙の誕生以前の現実への考察を新たに提起するものである。

またこれらゼロバランスの崩壊における歪みと空間におけるエネルギーの飽和性、光という存在性における変化が時間であり、これらは、 $m=E/c^2$ という定式における $c^2$ という現実が固定変化を形成し時間の形成を与えるという仮説は特殊相対論における時間と光の関係において可能なのである。

またエネルギーの凝縮性が、初期宇宙において存在し、空間の形成という宇宙の拡大は、空間の存在の許容性において、固定エネルギーの飽和性を空間の形成において要求するという仮説において、宇宙の完成は、空間の飽和性の形成であると考えられることは可能なのである。

また力の形成への考察を、 $m=E/c^2$ における $c^2$ という現実において求めることができるのである。

これらは固定エネルギー量において形成される宇宙がエネルギー保存の法則の原則として、その永続的な変化を形成し、それがゼロの崩壊を与えた歪みにおいて存在すると考えることは可能なのである。

これは、すべての物理存在が質量を  $m=E/c^2$  において有することを提起し、エネルギーと光運動において質量の形成を与えると提起できるのである。



これらは歪みを基盤として、すべてのエネルギー活動がその変化の永続性を形成することは、宇宙の誕生からのすべての変化は、数値化し数学における存在性においてそのすべての数学的な存在がその存在の可能性を有すると考えることができるのである。これらは1進法から20進法に至り、それに勝るすべての可能性はその物理的な存在を可能として、有すると考えることができるのである。

光速度の一定性への考察は、それら飽和性と、空間の形成と拡大という現実が3次元と時間の形成において有するならば、時間それ自体が光との相関性を有すると考えるとき、光は、固定存在であり、空間の拡大との反発性における速度形成の一定性が正しいと仮定することはできるのである。

これはまた光の形成が、空間との相関性におけるその働きであるということであるならば、すべての物理運動は半永久的な永久運動を有し、エネルギー保存の法則においてエネルギーの拡大でなく、一定エネルギーの変化が宇宙であるということが真実であるならば、存在の解明への考察は可能なのである。

この時、 $E=mc^2$  と  $m=E/c^2$  と  $c=\sqrt{m/E}$  という3つの定式がすべての説明を可能とできるかもしれないのである。